

第2学年〇組 英語科学習指導案

令和6年〇月〇日(〇)
第〇校時 2年〇組教室
指導者 T1

1 単元名 Unit7 Amazing Australia (Here We Go! ENGLISH COURSE 2)

2 単元について

(1) 題材観

本課は、比較表現についての学習である。比較表現の導入や練習では、「〇〇山は△△山よりも高い。」や「□□寺は世界で最も古い木造建築である。」などのように、自然や建造物などを話題にできる。さらに、生徒のよく知るスポーツ選手やアニメキャラクター、身の回りの人物の特徴などを練習材料として取り上げることで、生徒の興味関心は深まり、外国語の表現や文法事項の理解を大きく手助けすることとなる。

また、本課ではオーストラリアの紹介等を主に教科書本文の内容として扱っている。それは、学習指導要領(平成29年告示)目標の(3)「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」にせまるための題材として有用性が高いと考えられる。オーストラリアについて詳しい生徒でなければ、初めて耳にする情報もあるかも知れないが、オーストラリアに限定することなく「世界で最も古い寺」や「日本よりも人口が少ない」等の外国についての情報や文化などは、生徒の興味を容易に引き付けられると思うので、この題材で得た知識をもとに、自己の考えを表現できる力を養いたい。

(2) 生徒観

〈省略〉

(3) 指導観

ここで学習する比較級・最上級は、他の文法事項よりも馴染みやすく、日常会話において活用しやすいものでもあるので、最終的には「街を紹介しよう」というテーマのもと、事実に対しての自分の考えを、「書くこと」における【思考力・表現力】の育成の場面としたい。また学習指導要領では、[思考力、判断力、表現力等](2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝えあったりすることに関する事項において、「・・・同じタスクを相手や役割を変えながら複数回繰り返しながら学びを深めていくことも重要である。」とある。そこで、本単元においても、馴染みやすい活動場面を設定し、単純な活動を生徒たちが繰り返し行うことで、英語の運用能力を向上させ、最終的には「話すこと(発表)」の活動につなげたいと考える。

本課ではまず、【比較級・最上級】について学習する。それは、形容詞に-erをつけ、「～より〇〇である。」や、-estを付けた形で、「一番〇〇である。」という意味を表すものであるが、その形容詞の語尾変化には数パターンある。それらの規則を説明することにとらわれすぎて、教師の発話量過多にならないように気をつけなければならない。そのためには、ICT機器を用いて、視覚的にパターンの変化を示し、口頭練習することで、語尾変化の練習と定着を目指す。

次に、【長い形容詞の比較級・最上級】には、語尾変化せずに、more、mostがつくことを学習する。語の長さの定義を細かく説明することよりも、既習の形容詞の数は限られているので、このタイプの形容詞を提示させたり、生徒に発見させたりしたい。そうすることで、生徒の好奇心を揺さぶりつつ、既習の形容詞の復習の機会ともしたい。

最後に、【同等比較】について学習する。同等比較とは、形容詞の前後にas-asを使い「同じくらい-だ。」という表現である。これまでの比較級・最上級のような語尾変化はないので、慣れてきたら積極的に生徒個人の興味や関心のある物についての言語活動を取り入れたい。

3 本事業研究主題

「見える学力の育成 ～ALTの参画とタブレットの効果的な活用を目指して～」

本校では昨年度まで南中学校学校経営案で設定された最重点「学ぶ力を伸ばす」のもと、「学ぶ力」の育成を研究主題として取り組んできた。これは、生徒が自ら主体的に学ぶ態度や学ぶ力を育成することにより、見える学力(認知能力)の伸長へとつなげることを目指して取り組んできたものである。本研究を通して、生徒の自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度などについて、

質問紙調査の肯定的回答率が少しずつ向上し、成果を確認できた。今年度はこれまでの研究成果を基盤としつつ、さらに見える学力においても明確に伸長が示されることを目指して、実践の研究を進めていく。

また、英語科としては、「令和5年度埼玉県英語指導方法改善事業実施要項」に掲げられている取組内容の中で、デジタル教科書等のICT機器の効果的な活用とALTの授業への参画を重点として取組を推進していく。

そのために、本学習指導案の上記「2 単元について(2)生徒観」にも示した通り、タブレットの活用が積極的に行われていない実態を解決するため、デジタル教科書や三郷市の全小・中学校に導入されたミライシードを積極的に活用し、生徒たち自身の創造的な思考を促す英語指導を模索していく。

4 単元の目標

友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、形容詞・副詞を用いた比較表現（比較級・最上級・more/most・同等比較級）を活用しながらまとまりのある文を書き、音のつながりを意識して発表することができる。

- ・形容詞・副詞の比較表現（比較級・最上級・同等比較級）の特徴やきまりを理解し、それをもとに街のおすすめ等について書いたり話したりする技能を身に付けている。（知識及び技能）
- ・友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書いたり、話したりしている。

（思考力、判断力、表現力等）

- ・友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書こうとしたり、話そうとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

5 単元の評価規準

（本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと 書	<p><知識> 形容詞や副詞を用いた比較表現（原級、比較級、最上級）の特徴やきまりを理解している。</p> <p><技能> 街の魅力について考えたことや感じたことなどを形容詞や副詞を用いた比較表現（原級、比較級、最上級）などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書いている。	友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書こうとしている。
話すこと （発表） 発	<p><知識> 形容詞や副詞を用いた比較表現（原級、比較級、最上級）の特徴やきまりを理解している。</p> <p><技能> 街の魅力について考えたことや感じたことなどを形容詞や副詞を用いた比較表現（原級、比較級、最上級）などを用いて話す技能を身に付けている。</p>	友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある内容を話している。	友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある内容を話そうとしている。

6 単元の指導と評価の計画

	◆ねらい ○活動	知・技	思・判・表	態	評価
					◎評価基準<評価方法>
1	◆ 形容詞の比較級や最上級を使った資料を聞いたり、形容詞の比較級や最上級を使って、聞いたり書いたりする。				
	○ 形容詞の比較級や最上級の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。				
2	◆本文の音声や内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解する。				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本単元においては、第1時から第7時までは、目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価は行わない。ただし、生徒の学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間行う。 </div>
	○ p. 96の本文を音読する。 ※デジタル教科書で、音のつながり等を考えさせ、内容を理解する。また、ミライシードで、重要表現等を考えさせる。				
3	○ 形容詞の比較級と最上級の意味・形・使い方を理解する。				
	○ オーストラリアはどんな国なのか、本文内容について自分の言葉を用いて他者へ伝達する。				
4	◆形容詞の比較級と最上級を再確認し、それを用いて人や物の特徴などをについて書いた英文を、全体やペアなどで聞いたり話したりする。				
	○ 形容詞の比較級と最上級の意味・形・使い方を復習し、まとめる。				
4	○ 与えられたテーマについて作成した英文を、書いたり、話したり聞いたりする。				
	◆more, most を使う比較級や最上級を使った資料を聞いたり、それらを使って聞いたり書いたりする。				
4	○ more, most を使う形容詞の比較級や最上級の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。				
	◆本文の音声や内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解し、学習表現を用いて英文を書く。				
5 本時	○ p. 98の本文を音読する。 ※デジタル教科書で、音のつながり等を考えさせ、内容を理解する。また、ミライシードで、重要表現等を考えさせる。				
	○ 本時の学習表現を用いて、日本の文化等について紹介する言語活動を行う。				
6	◆more, most を使う形容詞の比較級や最上級を再確認し、それを用いて人や物の特徴などをについて書いた英文を、全体やペアなどで聞いたり話したりする。				
	○ more, most を使う形容詞の比較級と最上級意味・形・使い方を復習し、まとめる。				
6	○ 与えられたテーマについて英文を作成し、全体やペアなどで聞いたり話したりする。				

	○ オーストラリアで人気のあるスポーツについて、本文内容について自分の言葉を用いて他者へ伝達する。			
7	◆as ～ as ... を使った資料を聞いたり、as ～ as ... を使って聞いたり書いたりする。 ○ as ～ as ... を使った同等比較級の用法の特徴やきまりについて、言語活動を通して理解する。			
8	◆本文の音声や内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解する。 ○ p. 100 の本文を音読する。 ※デジタル教科書で、音のつながり等を考えさせ、内容を理解する。また、ミライシードで、重要表現等を考えさせる。 ○ 本時の学習表現を用いて「Mr. Kishi is」というテーマで言語活動を行う。	書	発	<知識> ◎ 形容詞や副詞を用いた比較表現（原級、比較級、最上級）の特徴やきまりを理解している。<ワークシート分析> <技能> ◎ 街の魅力について考えたことや感じたことなどを形容詞や副詞を用いた比較表現（原級、比較級、最上級）などを用いて伝え合う技能を身に付けている。<観察>
9	◆自分の町の名所や名物などを伝えるといテーマの原稿モデルと、紹介文を書く上での条件等を確認し、紹介文を書き始める。 ○ テーマの確認と、英文を書く上で役立つ語彙や表現の確認をする。 ○ 紹介するものの特徴や自分の考えが伝わるような内容を英文(紹介文)にまとめる。	書	書	◎ 友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書いている。<ワークシート分析> ◎ 友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書こうとしている。<観察>
10	◆自分の街の名所や名物などを伝える紹介文を書いて、友人らに発表する。 ○ 紹介するものの特徴や自分の考えが伝わるような内容を英文(紹介文)にまとめる。 ○ まとめた英文を、音のつながり等を意識しながら発表する。	発	発	◎ 友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある内容を話している。<パフォーマンステスト> ◎ 友人に対して「自分の好きな街の魅力」を紹介するために、その街のおすすめや特徴や自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある内容を話そうとしている。<観察>

7 本時の展開

(1) 目標

本文の音声や内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解し、学習表現を用いて英文を書くことができる。

(2) 準備 ○ICT機器 ○タブレット ○イヤホンセット

(3) 本時の展開

過程	<p>○学習活動 ・学習内容 ★タブレット活用場面</p>	<p>・指導上の留意点 ◎評価 <評価方法></p>
導入 7分	<p>○あいさつ ○英語で日常会話のやり取り ・スモールトーク、 週・月・天気の確認等 ○英語の歌</p>	<p>・授業への心構えをもたせる。 ・教師の英語発話による英語を聴き取る量を増やす。 ・既習の英語使用に努め、教師の英語での発話が分からない時には日本語も織り交ぜる。</p>
<p>めあて／ねらい 教科書本文の音声や重要表現のポイントに気づき、それらを参考に、日本について紹介しよう！</p>		
展 開 38 分	<p>○前時の復習 ・文法構造確認 ★ミライシードでのドリル練習</p>	<p>・一方的な復習ではなく、生徒からポイントを聞き出す。 ・達成度を全体で確認し、意欲喚起につなげる。</p>
	<p>○教科書新出単語の確認 ・宿題の確認</p>	<p>・宿題をやってきた生徒にその読みや意味を発表させて、意欲喚起につなげる。</p>
	<p>○教科書本文の読解 ★デジタル教科書の音声視聴 ・メモした内容の共有 ・全体での音読練習 ・内容についてのT・F(Q/A)</p>	<p>・音のつながり等をプリントにメモを取らせながら、英語音声に慣れさせる。[聞く→読むにつなげる] ・音声機能を活用して、聞き取れなかった箇所を繰り返し聞き取ったりすることで、各自のペースで行わせる。確実に知識及び技能等を身に付けさせる。 ・全体で共有したことを再確認し、音読練習する。</p>
	<p>○教科書本文の内容理解 ・本文に下線を引く(個人) ★ミライシードで下線箇所の共有(ペア・全体) →提出 ・教科書本文の読解(日本語訳) ・全体で日本語訳の確認</p>	<p>・重要表現等(既習文法事項)に下線を引かせ、日本語訳の助けとする。 ・教科書本文の単語や表現を個人で確認することで、教科書内の表現を活用して相手に伝えるという意識付けを行う。 ・机間指導をしながら、既習内容に気付かせるための手がかりを与える。 ・重要表現等が想像できない生徒には、本単元の新出単語にだけでも下線を引かせ、課題に参加させる。 ・全体で共有した箇所を、個人ノートに付け加えさせることで、主体的に言語活動に取り組むようにしていく。 ・下線をヒントに読解を進めることが、長文読解につながっていくことを気づかせる。</p>
<p>○学習内容を用いた言語活動 ・日本の文化等を説明する英作文を行う。(個人)</p>	<p>・学習した表現(教科書にある表現)を駆使し、自分の考えを付加していく。 ・具体的な課題を示し、生徒に見通しを持たせた後、デジタル教科書の本文から参考になるような表現を使ったり、自分の考えを付加したりするために、インターネット検索を活用し、情報収集をする。 ・困難な生徒に対し、有用な語彙等を適宜提示していく。 ・作業の速い生徒には、既習の表現等も用いて、さらにまとまりのある文となるよう喚起する。</p>	
<p>(例) Japan is hotter than Australia in summer. Baseball is more popular than soccer in Japan. (I think) Ohtani is the most famous baseball player in Japan.</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> 完成した英作文を、ペアで伝え合う。 	<p><中間指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 内容面では、日本の特徴や興味を喚起する文を書いている生徒を意図的に選んで、紹介することで、表現だけでなく具体的に伝える方法について確認をさせる。 言語面では、比較級や最上級の文を使ったり、既習表現を使ったりしている生徒を、意図的に選んで紹介することで、実際の使用場面を生徒に想起させ、使用を促す。
終 末 5 分	<p>○まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ／振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 音のつながりを意識して教科書本文を聞くと、読む(話す)力の向上につなげられる。 オーストラリアの人気スポーツが分かった。日本の()について紹介する文を()を使って書くことができた。 </div> <p>○次時の予告</p>	

8 備考
在籍 34名